

元気 パワー  
**\* GP 農法だより \***  
 無農薬自然農法 元気パワー農法

発行 GP 農法研究会 NO13  
 代表 佐藤 陸  
 〒344-0041 埼玉県春日部市増富 243-53  
 TEL 090-4672-1285 TEL 048-763-5362

## 《GP農法研究会 結成》

GP農法を推進するため、GP農法研究会を結成しました。これまでは農民連埼玉葛支部としてGP農法を推進してきましたが、GP農法をさらに発展・推進するため、農民連埼玉葛支部から独立し、GP農法研究会としました。農民連埼玉葛支部との関係は、協力・協同ということです。なおこの件については、GP農法推進プロジェクト（東京都渋谷区幡ヶ谷）からのご提案によるものです。GP農法研究会は、これまで当初から関わってきた佐藤陸が代表に当たることにしました。会報の発行や、GP農法関連資材の紹介・講習会等への講師の派遣などを行います。

《11月13・14日

農民連関東ブロック 秋季研究交流集会で  
 GP農法の報告 農民連埼玉葛支部 佐藤陸》

群馬県・伊香保温泉で開催された研究交流集会で佐藤陸が『GP農法（無農薬自然農法）と、土壌微生物のパワーの効果について』資料を配布・後記のような報告をしました。

GP農法は、良く言われている自然農法ですが、G=元気、P=パワーを表していて、これまで報じられてきた自然農法とはそのパワーの威力・効果の現われが全く違います。今、有機農法を続けている農家の多くは、「私は〇〇農法ですから最高の出来栄です。」と言うふうにしれば表現されていますが、一方ではその裏、病・虫被害や生理障害で苦労しているのも実態の一つです。

### 【GP 農法 その1】

土着の微生物全体を強力にします。（殆どの土着微生物は農薬や化学肥料等のため『休眠状態』にされています。）この土着の微生物に特殊加工したセラミックを農地に埋設すると1～3カ月で一斉に元気になります。（強力なエネルギーによるものです。）

### 【GP 農法 その2】

元気になった土着微生物を増繁殖させるために、エサと

してモミガラぼかし等10アール当たり500～1000kg（栽培期間が長いものはナス・トマト・などなど）施します。

### 【GP 農法 その3】

雑草エキスの使用目的は、病原菌や害虫を寄せ付けない、あるいは活躍させないためです。雑草エキスには、土壌に含まれていた農薬や環境物質、放射能までも分解する作用がある、ということがテストで実証されました。産業廃棄物の土が再生されたり、放射能汚染された土の残留量が激減したのです。

この結果を受け、今GP農法は、UNEPや公益法人、NPO等を通じてアジアに広がろうと、普及事業がいろいろところで開始されています。

すでにGP農法を取り入れている農家から、「効果の大きいことに驚き、且つ喜んでいる。」という報告がいくつもきています。一方、失敗もあります。その多くは農薬や化学肥料と共に使用した為です。あるいは“ぼかし肥料”が少なかったり、畝間や株間がせまかったり、雨水対策などが不十分だったりの栽培管理上の問題でした。

研究交流会場には、GP農法を取り入れたリンゴ（岐阜県高山産の「陽光」という品種）を準備、90分前に会場の後ろでホテルの方たちから皮つきで4つ切りにしたものを食べて頂きました。普通は15分位で変色してしましますが、全く変色しません。食べた方たち全員から、凄く美味しい、皮も柔らかい、実はしまっている等々のご感想を頂きました。写真は11月15日にリンゴを半切りにした直後のものと、翌日のものです。殆ど変色していません。

GP農法についてもっと詳しく知りたい方は、460円分の切手同封の上、『GP農法研究会』にご注文してください。「無農薬自然農法 元気パワー農法、GP農法を土壌微生物のパワー効果、研究交流会で配布したもの、他にGP農法用資材リスト等」のカラーコピーをお送りします。



11月15日 品種 陽光



11月16日 カット後1日経過



高橋利男さんのちぢみほうれん草 (全景)  
12月4日 ヒヨ鳥が昨年より来なくなった



春日部市庄和地区 林さんのいちご  
陽当たり良いところは2果房も順調に出ている  
今年は消毒無しで栽培中



ちぢみほうれん草 (アップ) 白っぽいのは霜  
1株200g目標 (従来 145g)

## 【雑草のエキスの抽出方法】

### ◆使用材料

- ・セラミック 好気性菌、嫌気性菌 各1個 (何回も使用可)
- ・元気水 (Kタイプ) 500cc 1本
- ・米糠 5kg (気温が低い場合は多めに)
- ・容器 200L 密閉用の蓋又はビニールシート
- ・多種の雑草 15~30種 容器の8割程度
- ・水
- ・攪拌用道具類
- ・雑草と抽出液の分離用の道具
- ・抽出液用の容器類 (ポリ缶他 ペットボトル等)

### ◆作業手順

- ①容器の底に2個のセラミックを置く。
- ②刈り取った雑草を米糠と交互にサンドイッチ状に積み重ねる。(容器の8~9割ほど)
- ③元気水 (Kタイプ) 250cc~500cc 入れる。
- ④容器の中の雑草が沈むくらいに水を入れ、攪拌する。
- ⑤容器はふたをせず、ビニールをかけてヒモでしばる。(写真-1)
- ⑥日陰で一昼夜放置すると、草が発酵してきてビニールを押し上げてくるので上下攪拌する。(写真-2、3) その後は1日おきに攪拌する。
- ⑦7日間位で発酵が済んで落ち着く (写真-4)。
- ⑧落ち着いて状態が変化しなくなったら、抽出液と雑草を分離して容器に入れる。
- ⑨沈殿物を除去して完了。(沈殿物は堆肥等に混入)



(写真-1)



(写真-2)



(写真-3上下攪拌後)



(写真-4)

### 【注意】

気温が10℃以下では活性化しませんので、抽出液を作ることができません。うまく発酵しない場合は、ものすごい異臭を発生しますので、その場合はこの時点で中止してください。

### ◆抽出液の使用法

原液は用途に応じて希釈して使う。

\*土壌に撒く場合・・・200倍      \*野菜や植物に直接かける場合・・・500倍